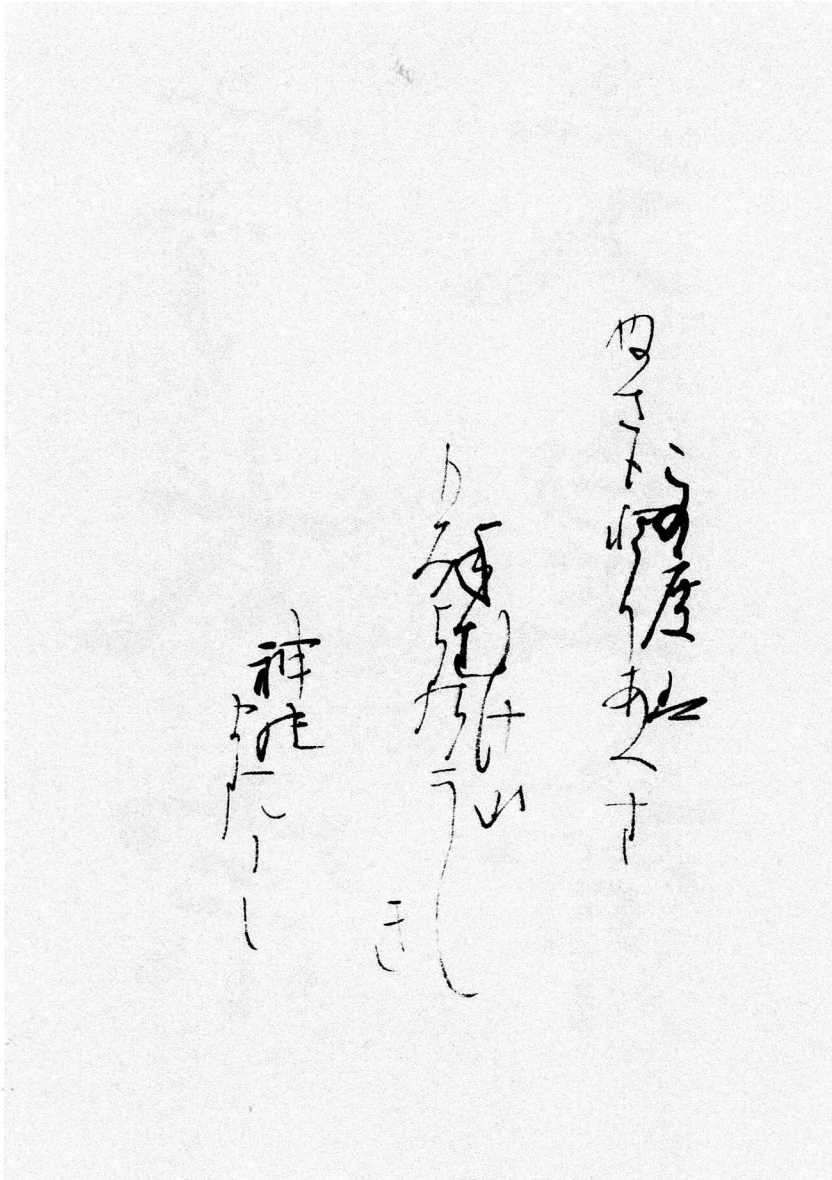


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

このたびは幣ぬさもとりあへず手たむけ向山やま 紅葉もみぢの錦神にしきかみのまにまに

菅かん家け



中村素堂先生の書

大島香菊様提供

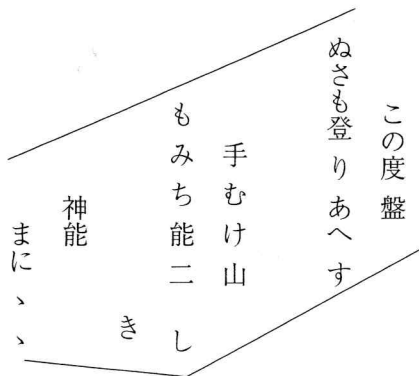
〈歌意〉

「この度の旅は急の行幸のため、お供えの幣の用意もできませんでした。そこで、この手向山の錦のように美しい紅葉を幣として捧げます。神の御心のままお受けください。」
 この歌は『古今集』(羈旅・四二〇番)に出ています。
 ○手向山 奈良の東大寺内の山。

(菅家)

菅家とは菅原道真の尊称。承和十二(八四五)年(延喜三(九〇三)年、五九歳)。

〈字母〉



二行を3集団に分け、いずれも行間を開けずに一行の散らし書きのように書かれています。

(青藍)